

# 事業評価シート(令和4年度事業評価用)

番号 2140025 \_ 001

## 【1.基本情報】

事業名	オープンキャンパス開催					
担当部名	薬科大学		担当課名	教務厚生課		
実施方法	直営	補助等の種類		実施主体	岐阜市	
開始・終了年度	平成	13	年度～	年度	根拠法令・関連計画	—

## 【2.事業概要】

目的 (何のためか)	本学への関心を深め、受験者数の増加、質の高い学生の確保を図る。					
内容 (手段・手法など)	本学入学希望者に対して、施設内の公開、ミニ講義、研究体験等を、保護者に対して説明会等を実施する。					
事業の 対象	何を	施設内の公開、ミニ講義、研究体験など				
	誰に	本学入学希望者及びその保護者				
	どのくらい	年1回開催、午前・午後の部×2日間				
令和4年度からの変更点 (継続事業の場合)	入学希望者等に本学の魅力をより発信していくため、前年度、前々年度までのwebオープンキャンパスから従来通りの来場型のオープンキャンパスに変更。					

## 【3.支出(行政コスト)】

### (1)人にかかるコスト

	令和2年度決算額		令和3年度決算額		令和4年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	1,203	37	937	29	5,311	167
パートタイム会計年度任用職員A	0	0	0	0	768	76
パートタイム会計年度任用職員B	0	0	0	0	0	0
計(A)	1,203	37	937	29	6,078	243

### (2)物にかかるコスト

		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
直接経費 【直接事業費】 (B)		187	0	361
直接事業費の 主な内訳		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
項目	記念品・食糧費	0	0	343
	保険料	0	0	18
	映像作成業務委託費	187	0	0
減価償却費 【施設管理】 (C)		0	0	0
計(D)=B+C		187	0	361

### (3)総コスト

	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
総事業費(E)=A+D	1,390	937	6,439

## 【4.収入】

	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
収入内訳	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
市債	0	0	0
使用料・手数料	0	0	0
その他	0	0	0
計(F)	0	0	0

## 【5.収支】

	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
市負担額一般 財源(E-F)	1,390	937	6,439

**【6.コストバランス】**

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業受益者	申込者(zoom)	申込者(zoom)	参加者(保護者含む)
受益者数	250	350	640
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	5,558	2,676	10,061

**【7.指標】**

**アウトプット評価** (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))

活動指標名	参加者数(高校生等及び保護者)		単位	人
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
目標値	250人	350人	320(高校生等定員)	
実績値	250人	350人	高校生等286人、保護者203人	

**アウトカム評価** (アウトプットによりもたらされた成果)

成果指標名	薬学研究体験の参加者アンケートでよかったと回答する割合(5段階評価中の「5」)			単位	%
	令和2年度	令和3年度	令和4年度		
目標値	100	100	100		
実績値	94.2	98.2	99.3		
達成状況	×(未達成)	×(未達成)	×(未達成)		

**【8.評価】**

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
<b>必要性</b> ①目的が市民・社会のニーズに合っているか ②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県) ③類似の事業はないか、あれば当該事業との統廃合はできるか ※【1】【2】から	高	国公立大学の9割以上の大学でオープンキャンパスを実施しており、少子化が進行する現在、オープンキャンパスの実施は学生募集の観点から不可欠。 オープンキャンパスを行うには、本学が主催する必要がある。 類似の事業なし。
<b>効率性</b> ①費用対効果 ②他に効率的な方法はないか(広域・民間活用・市民協働など) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	中	人的コストなどで費用がかかっているが、アンケートでは参加者の99.3%が「とても良かった」「良かった」と回答しており、一定の効果がある。 オープンキャンパスを行うには、本学が主体となって開催する必要がある。
<b>有効性</b> ・期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か ※【2】【7】から	中	令和5年度新入生アンケートでは、32.1%が影響したと回答しており、学生募集に一定の効果がある。
<b>公平性</b> ・受益者及び受益者負担は適正か ※【2】【6】【7】から	中	他大学のオープンキャンパスで受益者負担額として参加料を徴収している例はなく、当イベントの性格上、参加無料が適当。
<b>〔総合評価〕</b> ・拡充：目標を達成しており、良い状態が続いているため、より良くしていく ・現状維持：様々な要因により、事業担当課の裁量で拡充又は改善することが困難であり、現状のまま事業を継続していく ・改善：目標を達成できておらず、事業の統合や縮小、実施内容の変更など、見直しを図る ・廃止：実施予定期間満了などの理由により、事業を取りやめる	改善	目標値である参加者アンケートで5評価100%は達成できていないが、今後も、参加者のニーズをくみ取り、満足度を高めるようなプログラムを提供し、継続的に実施していく。

# 事業評価シート(令和4年度事業評価用)

番号 2140025 \_ 002

## 【1.基本情報】

事業名	市民公開講座					
担当部名	薬科大学		担当課名	教務厚生課		
実施方法	直営	補助等の種類		実施主体	岐阜市	
開始・終了年度	昭和	59	年度～	年度	根拠法令・関連計画	—

## 【2.事業概要】

目的 (何のためか)	薬学単科大学である本学の特性を生かした講義を行い、地域医療に貢献し、地域に開かれた大学を目指す。					
内容 (手段・手法など)	本学教員を講師として、「健康」をテーマに、健康であるために日常の食生活の中で気を付けることや、生活習慣ではどんなことに気を付けるべきか、くすりについてなどの講義(年5回)を行う。					
事業の 対象	何を	本学教員が講師の市民公開講座				
	誰に	一般市民、定員100名				
	どのくらい	年5回開催				
令和4年度からの変更点 (継続事業の場合)	前年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催を見合わせていたが、オンラインと対面で実施。					

## 【3.支出(行政コスト)】

### (1)人にかかるコスト

	令和2年度決算額		令和3年度決算額		令和4年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	0	0	0	0	636	20
パートタイム会計年度任用職員A	0	0	0	0	0	0
パートタイム会計年度任用職員B	0	0	0	0	0	0
計(A)	0	0	0	0	636	20

### (2)物にかかるコスト

		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
直接経費【直接事業費】(B)		0	0	128
直接事業費の主な内訳		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
項目	報償費	0	0	75
	消耗品	0	0	53
		0	0	0
減価償却費【施設管理】(C)		0	0	0
計(D)=B+C		0	0	128

### (3)総コスト

	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
総事業費(E)=A+D	0	0	764

## 【4.収入】

	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
収入内訳	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
市債	0	0	0
使用料・手数料	0	0	0
その他	0	0	110
計(F)	0	0	110

## 【5.収支】

	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
市負担額一般財源(E-F)	0	0	654

【6.コストバランス】

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業受益者	—	—	公募した受講者
受益者数	—	—	44
受益者負担額(千円)	0	0	110
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	14.4%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	0	0	14,864

【7.指標】

アウトプット評価（資源投入(インプット)により産出した活動(サービス)

活動指標名	開催回数		単位	回
	令和2年度	令和3年度		令和4年度
目標値	—	—	—	5
実績値	—	—	—	5

アウトカム評価（アウトプットによりもたらされた成果）

成果指標名	受講者数		単位	人
	令和2年度	令和3年度		令和4年度
目標値	—	—	—	100
実績値	—	—	—	44
達成状況	—	—		×(未達成)

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
<b>必要性</b> ①目的が市民・社会のニーズに合っているか ②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県) ③類似の事業はないか、あれば当該事業との統廃合はできるか ※【1】【2】から	中	地域医療に貢献し、地域に開かれた大学を目指すという目標の下、生涯学習の場を提供することは重要。 薬学単科大学である本学が主催して行う必要がある。 類似の事業として薬剤師生涯教育講座やリカレント講座などがあるが、いずれも対象者を薬剤師とし開催趣旨が異なることから統廃合はできない。
<b>効率性</b> ①費用対効果 ②他に効率的な方法はないか (広域・民間活用・市民協働など) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	本学教員が講師として開催するため、外部講師を招くより、低廉な報償費で開催できている。 本学教員が講師として開催していることで、コストの大部分を占める報償費を抑えられているため、他の効率的な方法は見当たらない。
<b>有効性</b> ・期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か ※【2】【7】から	高	令和4年度アンケートでは回答者の約7割が「参考になった」と回答しており、一定の効果がある。
<b>公平性</b> ・受益者及び受益者負担は適正か ※【2】【6】【7】から	高	受講料は1回あたり500円と、文部科学省が公表する公開講座受講料設定調査の約3割を占めた「1000円未満」に該当しており、適正である。
<b>〔総合評価〕</b> ・拡充：目標を達成しており、良い状態が続いているため、より良くしていく ・現状維持：様々な要因により、事業担当課の裁量で拡充又は改善することが困難であり、現状のまま事業を継続していく ・改善：目標を達成できておらず、事業の統合や縮小、実施内容の変更など、見直しを図る ・廃止：実施予定期間満了などの理由により、事業を取りやめる	改善	市民公開講座はこれまでも報償費を抑えて低いコストで開催している。令和2年度・3年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため開催を見合わせた。令和4年度より再開した。目標の達成はできなかったが、より地域医療に貢献できるよう、講座の内容等を精査して引き続き実施していく。